

Ⅱ－１

小学部の実践

## Ⅱ－1 小学部の実践

1. はじめに	19
2. 低学年の実践	21
3. 高学年の実践	33
4. まとめ	40

## Ⅱ－１ 小学部の実践

### １ はじめに

#### (１) 小学部で目指す姿

昨年度の研究では、低学年の目指す姿を「自分の好きなことや得意なことを見つけ、主体的に楽しく活動する児童」、高学年の目指す姿を「自分の役割を知り、その役割を主体的に果たそうとする児童」とし、小学部段階のキャリア発達を促す授業づくりに取り組んだ。実践は、低学年は遊びの指導「シャボン玉遊びをしよう」、高学年は生活単元学習「お店やさんをしよう」の単元を通して行った。

成果として、小学部段階のキャリア発達を促すための教師の支援や環境設定、活動内容の在り方についての学びを深めることができた。また、平成20～24年度の学校研究で得た“児童の目に見える行動の変化だけでなく、その行動の変化から推察できる児童の内面の変化を捉えていくことが重要である”という成果を活かすことができた。児童の内面の変化を捉え、それらを考慮しながら教師の支援や環境設定、活動内容の在り方を改善していく。そうすることで、児童のキャリア発達がより促されることを実践を通して実感できたことは大きな成果であった。

課題としては、高学年の目指す姿について“役割”に限定せずに広がりを持たせることで、児童のキャリア発達をより豊かに捉え、促していくことができるのではないかとということがあげられた。

本年度の研究では、前述した昨年度の課題を踏まえて、小学部の目指す姿について再検討を行った。検討していく中で、小学部段階のキャリア発達支援において大切にしたいこととして、児童の“自分への気づき”というキーワードを取り上げ、目指す姿を「自分の好きなことや得意なことに気づき、主体的に楽しく活動する児童」として低学年、高学年ともに研究に取り組むこととした。小学部のキャリア発達において大切なことの一つは、物事に取り組む姿勢の土台を築くことである。この時期に、自分の好きなことや得意なことに気づき、主体的に楽しく活動する経験は、児童のキャリア発達において、以下のような物事に取り組む姿勢の土台を築くことに繋がると考える。

- ① 好きなものや得意なものを手がかりにして活動を広げようとする姿勢
- ② 様々な経験をもとに、好きなもの得意なものを模索しようとする姿勢
- ③ 自らやってみよう、伝えてみようなど何事にも前向きに取り組もうとする姿勢

実践については、昨年度に続いて低学年は遊びの指導、高学年は生活単元学習で行うこととした。昨年度の課題を踏まえて、児童の内面を教師がどのような視点で推察したのかを表にまとめ、その方法について整理し、明らかにしていきたい。また児童のキャリア発達を促す授業づくりに大切にしたいことについても、昨年度の研究で得られた以下の4つの視点をもとに整理していきたい。

- ① 子どもの思いや希望を受け止める
- ② 学習活動に子どもの願いや希望を取り込むとともに、子どもの強みを活動に生かす
- ③ 学習の目標と、学習することの意味や意義を子どもに伝えることを大切にする
- ④ 子ども自身や子ども同士、教師と一緒に活動の振り返りをする

## (2) 教育課程の特徴

本校小学部では領域・教科を合わせた指導を大切にした学習活動を構成している。

特に低学年では、就学前教育からの移行を円滑に行うために、遊びの指導を教育課程の中心に据え、子どもの発達や学びの連続性を確保している。

そして、高学年では、低学年での学びの連続性を大切にしながら、遊びを中心とした学習活動から、生活上の目標を達成したり課題を解決したりするための実際の・総合的な学習活動へとつなげていくことで、より自立的な生活に必要な事柄を学ぶことができると考え、生活単元学習を教育課程の中心に据えている。

## 2 実践Ⅰ 小学部1組(1,2年)遊びの指導「どろんこ遊びをしよう」

### (1) 教育課程における遊びの指導の位置付け

本校小学部では、学級、小学部全体、グループごとと活動に応じて学習集団を編成している。児童がそれぞれの興味関心を生かして遊ぶことのできる遊びや、ルールのある遊びやテーマのある遊びなど、児童が様々な遊びを通して学びを深めることができるよう内容を選定している。児童の遊びの指導を通した学びとして大切にしていることを以下にあげる。

- ・思いきり遊び込むこと
- ・楽しみながら様々な経験を重ねること
- ・見通しを持って活動すること
- ・遊びたいことを選んだり、決めたりすること
- ・挑戦したり、試行錯誤(工夫)したりすること
- ・周囲に認められることで満足感を得ること
- ・他者と遊びの場や遊びの楽しさを共有する中で人との関わりを広げること

### (2) 単元設定の理由

本学級(小学部1組)は複式学級であり、小学部1年生3名と2年生3名の計6名で構成されている。遊びの実態も様々である。好きな遊びについては、水遊び、砂遊び、ブランコなどの遊具や工作、歌やダンス、ままごとなど個性にあふれている。また遊ぶ姿についても、自分の好きな遊びに一人で没頭する児童、友だちや教師との関わりを楽しみながら遊ぶ児童、教師の誘いかけを待っている児童など様々な姿がある。水遊びはどの児童も大好きな遊びであり、砂遊びも好きな児童が多い。水遊びでは、感触を楽しんだり、光が反射してキラキラと流れる様子を見て楽しんだり児童によってその楽しみ方は様々である。砂遊びでは、砂の感触を楽しんだり、砂の上に指で線を書いて楽しんだりとその楽しみ方もまた様々である。

そこで本単元では、児童が楽しく主体的に遊ぶ姿を目指して、児童の好きな水遊びと砂遊びを組み合わせた“泥んこ遊び”を取り上げることとした。砂と水を混ぜ合わせることによってできた泥は、砂よりも形を整えやすく、児童にとってもより扱いやすい素材である。山を作ることや、泥団子を作ること、型に入れて抜くことがしやすくなることで遊び方に多様性が生まれ、児童の興味に合わせて遊びを展開することができると考えた。また泥を作る際には、水の量を調整することで泥の硬さを自由に調整することができるという利点もある。例えば、食べ物に見立てて遊ぶ場面を考えてみる。泥は硬さを調整できるため、おにぎりなどの形のあるものから、カレーなどの半固形物、ジュースなどの液体にいたるまで様々な食べ物に見立てることができる。児童の好きな食べ物はそれぞれ多種多様であるが、児童それぞれに合わせて見立て遊びを展開していくことができると考えた。

### (3) 単元の目標

- ・泥んこ遊びを教師や友だちと一緒に楽しんだり、一人で楽しんだりする【関心・意欲・態度】
- ・ジョウロで水を流したり、スコップで泥をすくったり、手で泥団子を作ったりする【技能】
- ・流れる水を川に見立てたり、泥を食べ物に見立てたりする【思考・判断・表現】
- ・砂と水を混ぜると泥ができることを知る【知識・理解】

(4) 単元計画	総時数	18 時
第一次	泥んこ遊びに親しもう	6 時
第二次	泥んこ遊びを工夫しよう	6 時
第三次	泥んこ遊びを思い切り楽しもう	6 時

#### (5) 学習活動の様子

① 対象児童 A子 (小学部2年)

② A子の実態

##### 【遊び】

- ・水遊びが好きである
- ・砂遊びが好きである (家でも砂場で遊ぶことがある)
- ・人と関わるのが好きで、身近な大人には自分から積極的に関わろうとする
- ・友だちがしていることを真似てみたい気持ちが芽生えてきている
- ・自分からしたい遊びを伝えることが少ない  
(心配なことがあったり、遠慮したりしていることもある)
- ・自由に遊ぶことが苦手で、教師からの誘いかけを待っていることが多い

##### 【興味・関心】

- ・料理をすることが好きで関心が高い (家で母と一緒に料理をしている)
- ・幼稚園の頃に泥んこ遊びを経験しているが、あまり好きではない様子だった (母談)

##### 【コミュニケーション】

- ・指さしや身振り、単語の頭文字で伝える (欲しいものや身近な人の名前、出来事など)

③ A子の単元の目標

- ・泥んこ遊びを教師や友だちと一緒に楽しんだり、一人で楽しんだりする【関心・意欲・態度】
- ・ジョウロで水を流したり、スコップで泥をすくって器に入れたりする【技能】
- ・泥を身近な食べ物に見立てる【思考・判断・表現】
- ・砂と水を混ぜると泥ができることを知る【知識・理解】

④ A子の学習活動の様子

ア. 慎重に取り組むA子

5月29日(金) B男、C子、D子が砂場で泥んこ遊びを始めた。B男が、繰り返しジョウロで水をくんできては砂場に注いでいる。砂場には大きな水たまりができ、B男に続いて、C子、D子も水たまりの中に入って遊び始めた。C子は自分で持ってきたシャボン玉を水面に吹きつけて遊んでいる。D子はC子の遊びを見て、自分もシャボン玉が欲しいと手を伸ばす。D子に教師がシャボン玉を手渡すと、D子はC子を真似て水たまりの表面に向かってシャボン玉を一生懸命に吹いている。

少し離れた所からその様子を見ている児童がいた。A子である。A子は、何事にもとても慎重に取り組む児童であり、この泥んこ遊びに対しても慎重にその様子やう



B男、C子、D子が  
砂場で泥んこ遊びを始めた様子



D子はC子を真似て水たまりの表面に  
向かってシャボン玉を吹いている様子

かがっていた。砂場で遊んでいる3人の友だちの様子をうかがいながら、少しずつ近づいている。砂場から3m程の所で、教師が「A子ちゃんも一緒にやってみる?」と声をかける。A子は教師に、胸の前あたりで左手を左右に振る身振りで“しない”と伝えた。しばらくするとまたA子は砂場に少しずつ近づき出した。砂場のすぐ側まで来たA子はまだ慎重に様子进行をうかがっている。するとA子が近くに置いてあったスコップを手に取り、砂場にしゃがみこんだ。そして持っていたスコップで、水たまりをせき止めるために少し高く積んであった砂をすくいだした。教師が「気持ちよさそうだね。」と声をかけるが、A子はまた胸の前あたりで左手を左右に振る身振りで“しない”と伝えた。



遠くから様子をうかがうA子



少しずつ近づくA子

泥んこで遊んでいた3人に加えてE子、F子も泥んこ遊びに参加した。5人は靴と靴下を脱いで、砂場に出来た大きな水たまりに

素足を浸して、楽しそうに声をあげて遊んでいる。砂場のすぐ側にはA子がまた砂場で遊ぶ友だちの様子をうかがっている。B男が繰り返してジョウロを持って水場へ向かい、砂場に水をまいている。B男の様子をみていたA子が、水場へ向かい、水場で水をくんでいるB男の様子を見てい



A子がスコップを手に取り、砂場にしゃがみこんでいる様子

る。B男がいない隙を見て、A子が蛇口をひねって水を出す。A子は蛇口から出てくる水に右手で触れるとうれしそうに笑顔を見せた。A子はしばらく蛇口をひねって水を出したり止めたりを繰り返しながら、水に触れることを楽しんでいた。たまたまに水場に水をくみにくるB男とは蛇口を譲り合ったり、奪い合ったりしている。そんなやりとりの中で、B男が空の器に水を入れて欲しくて「あー、A子ちゃんダメー!!」と声をあげていた。器に水がいっぱいになると今度は水をとめて欲しくて「あー、やめてやめて」とB男は声をあげていた。その声を聞いて、A子は確かめるように教師の顔に視線をやり、蛇口をひねって水を止め、笑顔を見せた。

#### イ. 思い切り泥んこで遊ぶ楽しさへの気付き

5月29日(金)に続いて、6月1日(月)A子はまた砂場の側で友だちが遊ぶ様子をうかがっていた。A子には、とても慎重に物事に取り組む



蛇口をひねるA子



水場でのA子とB男

という面に加えて、手や服などが汚れることを気にするという面もあった。そんなA子にとって、全身泥んこにまみれて遊んでいる友だちの姿は、A子にとって衝撃的なものであったかもしれない。しかし教師たちは、友だちの楽しそうな姿にA子の「自分もやってみたい」という思いは高まっているはずであると推察していた。しかし、A子は泥んこ遊びをすることをためらっている様子だった。A子がためらう理由を普段のA子の姿から推察した教師が、「泥んこ遊び楽しそうだね。服が汚れてもいいんだよ。汚れたら着替えたらいよいよ。」と声をかけた。教師



教師にジョウロで水をかけてもらうA子とE子

の声かけにA子は笑顔で大きく頷いた。A子は靴と靴下を脱いで水たまりの中に両足を浸すと、その瞬間、笑顔がこぼれた。A子は水たまりの中へどんどん入っていく。近くには、水たまりの中におしりを浸して座っているE子。E子は脚に、教師にジョウロで水をかけてもらい、両手足をバタバタさせながら声をあげて笑っていた。A子がE子の隣に座った。A子のおしりはいつのまにか、水たまりに浸っていた。A子とE子の脚に教師がジョウロで水をかける。2人は手足をバタバタさせながら「キャー」などと声をあげて笑顔を見せていた。E子が「つめたい」「きもちー」と言った言葉をA子も真似ている。そしていつの間にかA子の脚や腕、体操服や顔には、はねかえった泥が沢山ついていて、D子も加わって、3人で泥んこの中にどっかりと腰を下ろして遊ぶ姿も見られた。3人とも、脚にジョウロで水をかけてもらって、長休みの時と同様に泥んこ遊びを楽しんでいた。さらにA子はスコップや器で泥をすくって鍋に入れるなどして遊ぶようになった。

#### ウ. 自ら積極的に遊ぼうとする姿

A子は、自分の意図とは違っていても「うん」や「はい」と返事をすることがある。質問の意味が十分に理解できていなかったり、まあそれでもいいかと思ったりした時である。このような時の表情は笑顔が見られず、声も小さく覇気がない。反対に、自分の思いをわかってもらえた時の表情は弾けるような笑顔で、「うん」や「はい」の返事の声も大きく覇気がある。遊びの場面においては、A子は自分からしたい遊びを伝えたり、先頭を切って遊び始めたりすることが苦手な面がある。

6月2日(火)、A子が身振りで教師に何かを伝えてきた。A子は両手の人差し指を立てて、胸の前あたりで交互に動かしながら、教師の顔を覗き込んでいる。小学部で共通して使っている「遊び」の身振りだった。「A子ちゃん遊びたいの?」ときくと、「うん」と笑顔で返事をしたA子。「何して遊びたいかな?」と返すと、A子は中庭の方を指差している。「中庭行きたい?」、また笑顔で頷くA子。D子、E子と一緒に中庭へ出ると、A子はすぐに砂場へ向かい、靴と靴下を脱いで泥んこで遊び始めた。しばらく遊んでいると、一緒に遊んでいたE子が先に教室に入った。しかしA子はE子の様子に気付いているのかいないのか、一人になっても遊びを続けていた。

しばらくして、教師はA子に「A子ちゃんそろそろ教室に入ろうか」と誘いかけた。A子は左手を胸の前あたりで左右に振ってから、今遊んでいる泥んこを指さして「これ」と言った。まだ遊んでいたいことをA子は自分から教師に伝えた。一人で遊びに没頭することが少なく、友だちや教師がしている遊びにつられて遊びを変えることが多い児童だったA子が、自ら積極的に遊ぼうとしていることが強く伝わっていた。



楽しそうに笑顔を見せるA子とE子



スコップで泥をすくって鍋に入れるA子



一人になっても遊び続けるA子



## エ. 友だちや教師の遊びへの気付きから工夫する楽しさへの気付き

6月11日(木)、500mlのペットボトルに穴を開けて作ったジョウロを泥んこ遊びで使って

みることにした。D子が手にとり、流れ出てくる水に手をあてている。D子の様子をC子が近くで見ている。C子が手を伸ばすと、D子は持っていたペット



ペットボトルジョウロで遊ぶD子



D子からペットボトルジョウロを受け取るA子



ペットボトルジョウロで遊ぶA子

ボトルジョウロをそっと手渡した。

A子は友だちの様子をよく見ていて、その様子を指さしや身振りで教師に伝えてくることが多くあった。教師が「A子ちゃんもしてみる?」と誘うと、A子の慎重な一面も手伝ってなのか断ることが多かった。しかし近頃では、友だちの言った言葉を真似たりと、友だちのしていることを自分もやってみたいという気持ちが芽生えてきている様子である。泥んこ遊びでも、A子は友だちが遊ぶ様子をよく見ていた。

6月15日(月)、A子は近くに置いてあったジョウロを指さして「んー」と教師に伝えた。教師はジョウロを持って来て「ジョウロ?」とA子に声をかけた。A子は「これ!!」と言って、笑顔でジョウロを手を取った。教師が「一緒に水くんでこようか?」と誘いかけると、



ジョウロで遊ぶB男

A子は笑顔で「うん!!」と言って、早歩きで水場へ向かった。教師が手伝ってジョウロに水を入れると、A子は水が入ったジョウロを一人で持ち、砂場へと歩き出した。砂場につくとジョウロを傾けて水を注いだ。A子は「ここ」と言って、自分で場所を決めては水を注いだ。ジョウロは、B男が気に入って遊んでいたものだった。B男の遊ぶ様子をA子はよく見ていた。A子はそこで自分もしてみたいという思いを膨らませていったのだろう。教師が「水がひろがったね」などと声をかけると、A子は「あははは」と声をあげて大笑いした。ジョウロの中の水がなくなると、自ら教師を誘って水場へ水を汲みに行き、何度も繰り返して遊んだ。6月16日(火)、A子は前日に続いてジョウロを手を取った。そして、新たな遊び方を発見した。ジョウロを地面に置いて、

注ぎ口だけを傾けて水を地面に注いだ。A子はこの方法でもジョウロで水を注げることを確かめるように、この注ぎ方を繰り返した。

他にも、自分から友だちの脚にジョウロで水をかけるA子の姿も見られた。A子は、教



教師と一緒にジョウロで水を注ぐA子



ジョウロを地面に置くA子



地面に置いたジョウロを傾けて水を注ぐA子

師の様子もよく見ていて、真似てみたい思いを膨らませていたのだろう。

#### オ. 主体的に遊ぶ姿

A子は、家で母と料理することを楽しんでいて、母の話によると、肉そぼろやチャーハン、ホットケーキなどを一緒に作っていて、自分から作りたいと伝えてくることもあるとのことだった。泥んこ遊びを始めた頃から、A子の楽しく主体的に遊ぶ姿を促すため、A子の好きな料理の要素を取り入れて、教師がモデルとなるよう見立て遊びを行っていた。教師が「チャーハン作ろうかな」と言って容器に入れた泥を混ぜている姿などを、A子はよく見ていた。



笑顔で遊ぶA子



泥をスコップですくって器に入れ、混ぜるA子

泥んこで主体的に遊ぶことが増えたA子がよくしている遊び方が、泥をスコップですくって、ボウルや鍋などの容器に入れてスコップで混ぜる遊びである。教師が「何作ってるのかな?」と声をかけると、A子は「ママ」と答えることが多かった。教師の問いにそう答えながら、繰り返し遊んでいるA子の姿からは、何かに見立てて遊んでいることが推察できた。教師が「そぼろ?」と声をかけると、A子は顔を上げて教師の顔を覗き込んで、笑顔で「うん」と言って大きく頷いた。A子は自分の経験と泥んこ遊びを繋げて、自分の好きな料理に見立てて遊んでいたのだった。



ボウルに入れた泥を泡立て器でかき混ぜるA子

6月17日(水)には、新しい道具として泡立て器を追加した。A子は、泡だて器を見るなり、「んー」と言って泡だて器に手を伸ばした。教師が手渡すと、笑顔でボウルの中の泥をかき混ぜ始めた。ボウルの中の泥をのぞき込みながら、脇目もふらずかき混ぜ続けている。教師が「何作ってるのかな?」と声をかけると、A子はまた「ママ」と答えた。教師が「ホットケーキ?」と聞くと、身振りで「ちがう」と伝えるA子。教師が続けて「お好み焼き?」と聞くと、A子は笑顔で「うん」と言ってまた大きく頷いた。

#### ⑤考察

##### ア. A子の単元の目標及び単元を通してのキャリア発達について

まず、A子の本単元の目標についての考察をしたい。④で述べたことや、〈様式2〉の記録から、A子はどの目標についても達成したと評価した。

次に、本単元を通してのA子のキャリア発達について考察をしたい。

本単元を通して、A子は積極的に遊ぶようになり、一人でも満足いくまで遊ぶ様子が見られるようになった。さらには、自分なりに工夫する様子も見られるようになった。これは何事にも慎重で、教師に承認を求めることが多いA子にとって大きな成長であったと考えられる。

A子が自分から“遊びたい”という思いを教師に伝えるようになったことも大きな変化であった。周囲の意見に合わせる事が多かったA子が、自分の思いを主張するようになった。A子の何とかして伝えようとする行動からは、A子が自分の思いをはっきりと持っていることが推察できた。さらに、自分の思いを教師に伝え、受け止めてもらえた経験は、A子が他者と信頼関係を築

き、人との繋がりを広げていく上での基礎となるものであろう。

最後に、本単元を通して、A子は見立て遊びを楽しんでいた。A子の見立て遊びは、自分の経験をもとにしたものであった。自分の生活そのものと、遊びの場面が繋がることで、A子は遊びの世界を広げていった。これらはA子が自分で選択し、工夫し、生活を豊かにしていこうとするスキルや姿勢に繋がっていく経験であったと考える。

#### イ. 単元設定および授業の展開について

本単元を通して、A子のキャリア発達を促すために大切にしたい単元設定や授業の展開について考察をしたい。有効であった主な支援としては、以下のことがあげられる。

- ① A子の思いを教師が受け止めながら授業を展開したこと
  - ② A子が友だちや教師と楽しく関わる経験を積めるよう、一緒に遊んだり、仲介役をしたりしたこと
  - ③ 単元設定や授業内容の選定の際に、A子の関心の高いもの（水遊び・料理）を取り入れたこと
- 特に、人と関わるのが好きなA子にとって①、②の支援はこれからもA子が安心して自己主張をしたり、活動したりする上で大きな役割を果たすものであろう。A子が、友だちや教師をモデルとして経験を広げること、喜びや楽しさを共有することで人との関わりを広げたり深めたりすること。小学部段階においてこのような経験をこれからも積み重ねていくことが、A子のキャリア発達をより促していくことになるであろうと考える。

児童生徒(A子)の内面(推察)							
月日	教師の手だて・支援	児童生徒の学習活動の様子(A子)	要求	知識	自己認識	自己効力感	その他
5月29日		クラスの友だち3人が砂場で泥んこ遊びをしている様子を、遠くから見ている					
	教師Aが「A子ちゃんも泥んこ遊びしてみよう?」と誘いかける	A子は左手を振って誘いかけを断るが、少しずつ砂場へと近づいて行く	みんなと一緒に遊んでみたい	でも、服が汚れそうで心配			
		砂場にあつたスコップで砂をすくったり、場所を変えては立ったり座ったりして砂場の周りを探らしている					
	教師Bが「A子ちゃん、服汚れてもいいんだよ。泥んこ遊びしてみよう?」と誘いかける	A子は笑顔でうなづき、靴と靴下を脱いで、水たまりの中へ足を浸した			服が汚れてもいいんだよ。泥んこの水たまりも気持ちいい		
6月11日		クラスの友だちや教師と一緒に中庭に出ると、砂場で靴と靴下を脱いで自分から泥んこ遊びに加わった	みんなと一緒に泥んこ遊びをしたい		泥んこ遊びってのしい		
		水たまりの中に座っているE子ちゃんの隣に自分から座る	E子ちゃん楽しそう私もやってみよう				
	E子ちゃんにしていたように、脚にジョウロで水をかける	E子ちゃんと一緒に笑顔で「キヤー」などと声をあげている				またみんなと泥んこ遊びしたい	

月日	教師の手だて・支援	児童生徒(A子)の内面(推察)				その他
		児童生徒の学習活動の様子 (A子)	要求	知識	自己認識	
6月1日	ジョウロで脚に水をかけたり、脚に泥をのせたりする	B子ちゃんと一緒に水たまりに座って遊んでいる				
		B子ちゃんが先に教室へ戻るのを見て、A子ちゃんも教室へ戻る				
	ジョウロで脚に水をかけたり、脚に泥をのせたりする	B子ちゃんと一緒に水たまりに座って遊んでいる				
		B子ちゃんが先に教室へ戻るのを見たが、A子ちゃんは遊び続けている	気が付いていない？ 遊び続けていたい？			
	「A子ちゃんも教室に入る？」と声をかける	A子ちゃんは左手を振って、教室へ入らずに遊び続けている				
	「まだ遊びたい？」と声をかける	A子ちゃんぼうぼういって、笑顔で遊び続けている	もっと遊んでいたい			

児童生徒(A子)の内面(推察)							
月日	教師の手だて・支援	児童生徒の学習活動の様子 (A子)	要求	知識	自己認識	自己効力感	その他
6月2日		2限の授業終了後、自分から「遊び」のジェスチャーをする	泥んこ遊びをしたい				
	いくつかの遊びの選択肢を声に出して言う	教師から「泥んこ遊び?」ときか れたときに、「うん」と言って笑 顔でうなづく					
		クラスの友だちや教師と一緒に 中庭に出て、砂場で靴と靴下を 脱いで自分から泥んこ遊びを 始めた			自分のしたいことができ るって楽しい		
7月1日		終わりの会の後、砂場を指さし て、教師の顔を見る	泥んこ遊びをしたい				
	「泥んこ遊びしたかった の?」と声をかける	笑顔で「うん」と言って大きく頷く					

児童生徒(A子)の内面(推察)							
月日	教師の手だて・支援	児童生徒の学習活動の様子 (A子)	要求	知識	自己認識	自己効力感	その他
6月15日		泥をスコップですくうなどして遊んでいる。ジョウロを戻つけて、指をさして「んー」と言う	友だちや先生のようにジョウロを使ってみたい				
	ジョウロを持ってきて、「ジョウロ?」と声をかける	「これ!!」と言って、笑顔でジョウロを手取る					
	「一緒に水くんどこようか」と誘いかける	「うん」と言って、ジョウロを持って教師と一緒に水場へ行く	自分で水の入ったジョウロを運ぶことができる				
	水を入れるのを手伝う	水の入ったジョウロを自分で持って運ぶ				自分で水の入ったジョウロを運ぶことができる	
	「水が広がったね」「わー、流れていくよ」などと声をかける	「ここ」と言って、水を注ぐ(水たまりなどがない平らな所) ※解掛け部分を何度も繰り返す	ここに水を流してみたい			自分でジョウロで水を注ぐことができる	
		「あははは」と声をあげて大笑いする					
6月16日		ジョウロを地面に置いて注ぎ口だけ倒して水を流す	ジョウロを地面に置いて注ぎ口を倒せば水を流すことができる				
	「D子ちゃん気持ちよさそうだね」などと声をかける	自分から友だちの脚にジョウロで水をかけた	先生のように、友だちの脚にジョウロで水をかけてみたい				

月日	教師の手だて・支援	児童生徒の学習活動の様子 (A子)	児童生徒(A子)の内面(推察)				
			要求	知識	自己認識	自己効力感	その他
6月	料理の要素を取り入れて、遊びのモデルを繰り返し示す	料理をすることが好きで、家でも母と料理をしている		泥んこで料理みたいに遊ぶことができる			
	一緒に遊ぶ	ボウルなどの容器に泥を入れてかき混ぜることが増え、繰り返し遊んでいる				料理は得意だ	
	「何つくってるのかな」	「ママ」と答える	いつもママと作っているものだよと伝えたい				
	「そぼろ？」	笑顔で「うん」と言って大きく頷く					



### 3 実践Ⅱ 生活単元学習「うきうきデーに行こう！～紙すきではがきをつくろう～」

#### (1) 教育課程における生活単元学習の位置付け

本校小学部では、主に学級ごとで生活単元学習を行っている。取り扱う内容は、児童の興味関心や児童の実態、生活年齢などに応じて選定している。本年度は、調理や栽培を取り入れた活動や買い物学習、行事の事前・事後学習などを主な内容とし、児童が生活単元学習を通して学びを深めることができるよう取り組んでいる。生活単元学習を通して大切にしていることを以下にあげる。

- ・楽しみながら主体的に活動すること
  - ・食べたいものや欲しいもの、したいことなどを自分で選んだり、決めたりすること
  - ・見通しを持って活動すること
  - ・体験を通して学ぶこと
  - ・役割のある活動を経験すること
  - ・自分の活動に注目してもらったり、他者の活動に注目したりする経験をする
  - ・周囲に認められる経験をすることで満足感を得ること
  - ・他者と経験や活動の楽しさを共有する中で人とのかかわりを広げること
- さらに高学年では、以下のことを大切にしている。
- ・児童がそれぞれの役割を持って臨むこと
  - ・調理したいものや体験したいことを、みんなで選んだり決めたりする経験をする
  - ・自分で目標を決めたり振り返りをしたりすること
  - ・他者の良い所を知ること

これまで本校で取り組んできた研究成果より以下の「キャリア発達を促す教師の関わり」を大切に学習計画を立てて行ってきた。

- ① 子どもの思いや希望を受け止める
- ② 学習活動に子どもの願いや希望を取り込むとともに、子どもの強みを活動に生かす
- ③ 学習の目標と、学習することの意味や意義を子どもに伝えることを大切にする
- ④ 子ども自身や子ども同士、教師と一緒に活動の振り返りをする

#### (2) 単元設定の理由

本学級は、5年生3名、6年生2名の計5名による複式学級である。児童の興味関心は様々であるが、食べることや乗り物に乗ることが好きな児童が多い。1学期のうきうきデーでは、お店での食事や公共交通機関の利用に興味を持って取り組む姿が見られた。しかし、初めての活動が苦手だったり、自信を持って活動をするまでに時間が必要であったりする実態がある。

「うきうきデー」は、年間3回、学級ごとに実施している校外学習である。行き先や活動内容に児童の願いや希望を取り入れやすいことから、見通しが持ちやすくどの児童にとっても楽しい学習である。1学期の「うきうきデー」の様子から2学期の「うきうきデー」の主な内容は、公共交通機関の利用、体験学習、ファミリーレストランなどでの食事を取り上げることにした。1学期の「うきうきデー」を発展させた内容であり、児童が事前・事後学習に意欲的に取り組むことができると考えた。事前学習に取り組むことで、児童の「うきうきデー」に対する期待感を高め、より積極的に取り組む姿を期待できると考える。また、校外の体験学習を取り入れることで、児童の活動の幅が広がることを期待したい。

本単元で取り上げた「うきうきデーに行こう！～紙すきではがきを作ろう～」は、電車に乗って石川県南部にある加賀市に行き、紙すき体験をするものである。体験学習として紙すきを取り上げたのは、活動の手順が分かりやすく、やり直しが出来ることから児童にとって取組みやすいと考えたからである。また、本校中学部の作業学習でも紙すきを行っており、高学年の児童にとっては中学部につながる体験になると考えた。事前学習の学びを生かして、当日成功する体験を積むことを期待したい。

校外学習の単元では、初めて取り組む活動に対し見通しを持って取組めるよう「事前学習・実践・事後学習」という流れで行う。

事前学習では、児童が実際に利用する乗り物や施設の画像を使用したスライドを使って活動日程の確認を行い、ワークシートに体験のめあてを立てて発表する。そして、児童が実際に触れて、素材の感触を肌で感じながら形の変化を間近で楽しめるよう、実際の紙すき体験に近い模擬体験を行う。事前学習を通して、児童の活動への期待感や安心感を高めたい。

体験当日は、「見る、聞く」だけではなく、実際に素材の変化に応じ、指差しや声かけを行いながら活動することで、形が変わる様子や仕上がりに近づく過程に気づけるよう指導していく。体験後すぐに、出来上がったはがきをみんなで見て、それぞれの作品の違いや良いところを認め合い、達成感を感じられるよう支援したい。

事後指導では、当日の写真をスライドショーにまとめ、活動をひとまとまりとして振り返ることができるようにする。さらに、項目別に分けたワークシートに活動の様子を記述し、発表する。みんなの前で自分の思いを表現する場を設け、「伝える」「話を聞く」「友達の思いを認め合う」ことを学べるよう支援したい。また、思い出を整理する「アルバム作り」を行い、活動の定着をねらいたい。

### （３）単元の目標

- ・興味をもって紙すき体験をしたり、公共交通機関を利用したりする【関心・意欲・態度】
- ・体験したいことや振り返りについての自分の思いを発表する【思考・判断・表現】
- ・自分のしたい活動内容や食べ物を選ぶ【思考・判断・表現】
- ・見通しを持ち活動に参加する【知識・理解】【技能】
- ・行先の切符を買ったり、マナーを守って公共交通機関を利用したりする【知識・理解】【技能】

### （４）単元計画

	総時間	15時
第一次	うきうきデーの活動内容を知ろう（スライド）	2時
（事前学習）	紙すきの練習をしよう（模擬体験）	2時
	活動の確認をしよう（DVD視聴と昼食選び）	3時
第二次	紙すきではがきを作ろう（実践）	6時
第三次	振り返りをしよう①（ワークシート記入、発表）	1時
	振り返りをしよう②（思い出を整理しようアルバム作り）	1時

### （５）学習活動の様子

①対象児童 G男 小学部5年

## ② G男の実態

- ・学校では発語はないが、家族とは短い文で話しコミュニケーションをとる
- ・初めての活動に取り組む際に時間が必要であるが、様々な活動に意欲的に参加しようとする
- ・乗り物（バス、電車、自動車など）に乗ることや見るのが好きである
- ・自分の思いをなかなかうまく表現できないが教師の促しにより伝えることができる
- ・単独での行動が多かったが、クラスの友達や教師の様子をよく見て行動できるようになってきた
- ・余暇での公共交通機関の利用はほとんどないが、電車やバスは非常に好きである
- ・失敗を恐れ活動に対して躊躇し力を出し切れないが、技能面において十分な技術を有している

## ③ G男の単元の目標

- ・興味を持って紙すき体験を行う【関心・意欲・態度】
- ・体験したいことや楽しかった活動を伝える【思考・判断・表現】
- ・見通しを持ち活動に参加する【知識・理解】【技能】
- ・行先の切符を買ったり、マナーを守って公共交通機関を利用したりする【知識・理解】【技能】

## ④ 学習の様子

学習の計画としては、「事前学習」「実践及び体験」「事後学習」の流れで取り組んだ。

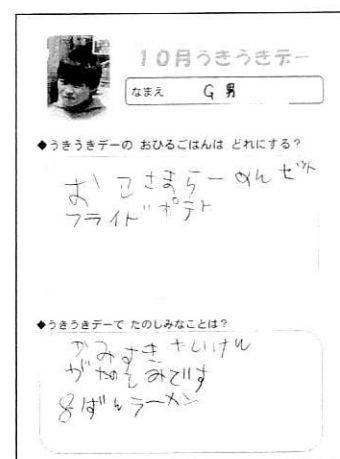
### ア. 見通しを持ち意欲につながる事前学習

ある程度の見通しがないと取りかかれないという慎重な面もある G 男に対して、事前学習では、「スライドによる説明（日程、活動工程など）」と「当日の体験により近い形の模擬体験」の二本立てで行った。

第一次では、スライドを使用し活動の流れを実際の画像を取り入れて説明をした。乗り物好きの G 男は日程説明の場面で、北陸線の電車の画像が出てくるとスライドをしっかりと見ていた。アニメーション加工した画像が動き出すと笑顔になり、画像の動きを近くにいる教師やクラスメイトに指さして伝えた。言語指示による理解力はあるため、徐々に詳細が分かると集中して説明を聞く姿が見られた。紙すきの説明時に、実際に紙すきでできた見本の紙を見せると、G 男は何度も触って仕上がりを確認した。スライドで説明をした後には、事前学習のワークシートを使用し当日の学習活動の中で「何を楽しみにしているか」を書き出す活動を行った。G 男は近くの教師と相談しワークシートの欄に自分の言葉で「紙すき体験をがんばる」と表現することができた。

第二次では、本校中学部の作業学習で使用している紙すきの器具を借りて模擬体験を行った。学級の児童の中にも活動の見通しが持てないことで不安定になることがあるため、教師が 6 つの工程の示範を一つずつ丁寧に児童全員の前で行った。G 男は、掃除機を改造して作った水取り装置がとても気に入り、機械が動くときしっかりと教師の説明を聞いていた。模擬体験の開始を伝えると G 男は手を挙げ「一番にやりたい」と、とても意欲的な姿を見せた。指示だけを聞いて、手順通りに、丁寧に仕上げることができた。その時の様子を撮影し視聴する時間を設けて活動の振り返りを行った。

G 男の表情より、スライド説明時は「楽しそうな活動だけど、自分でできるか少し不安」といった様子が伺えた。しかし、隣に座っている教師に対し、何度も移動手段や活動のスライドを指



事前学習のワークシート

さしながら思いを伝えようとする姿から、楽しみにしたり興味を持ったりしているようだった。模擬体験の映像を見た時も、客観的にビデオの中の自分を見たことで、活動工程と自分でも「できる」という自信の再確認が行えたと考える。さらに保護者より、『『紙すき楽しみ』と自宅では自分の気持ちを家族に言葉で張り切って伝えることがあった』と連絡を受けた。この様子から体験へ対する思いの大きさが伺えた。

#### イ. 自分の思いが形になった紙すき体験当日

G男は公共交通機関の利用を好み、電車に乗ることを非常に楽しみにしていた。安心して切符が買えるようあらかじめ定額を用意して自動券売機に各自でお金を投入し、金額が点灯しているボタンを押し購入できた。ホームでは、自分たちの乗る電車が到着することを教師に教えてくれた。車掌席が見える車両に乗車し、手すりにつかまり、他の乗客を遮らないよう車掌席を見学していた。さらに扉の開閉ボタンを押す時には、乗降時のみに操作することを意識している様子で遊びで押すことはなかった。

これは事前指導で説明した、「学習時の約束」をしっかりと聞き覚えていたからと言える。スライドでの説明の後、スライドを印刷しファイリングしたものを児童が常に確認できるよう教室に常置した。これにより、休み時間に見ることができ何度も確認できる環境を設定した。併せて、一学期の校外学習で学んだことが生かされていると考えられる。

紙すきの館に到着すると、G男は館内の商品や陳列されている和紙をよく見ていた。体験前の説明も集中して聞くことができ、一つ一つの工程を示した掲示を確認しながら行えた。6つに仕切られた木枠を使用して、はがきの1枚1枚に準備された乾燥落ち葉、色紙、染色液（赤、青、黄、緑）、金銀箔液を使って装飾していた。G男は、特に落ち葉を飾り付ける活動や、色付ける活動はとても慎重に行う姿が見られた。落ち葉をはがき6枚分を考えて分配していた。色づけは黄色をベースに赤系、青系に2枚ずつ染色し赤→黄、青→黄のグラデーションによる色の変化を表現させていた。残りの2枚は金銀箔で1枚ずつ染め上げた。上手く色分けができたのはがきから、自分なりに配色を考えた様子が伺える。出来上がったはがきをクラスみんなで見合ったところ、葉っぱの配置や色付けにG男の丁寧さ、工夫が感じられた。

この体験の中でも、教師の補助を受けるのではなく、指示を聞きながら行うことができた。また、活動への入り方もとてもスムーズであった。体験の積み重ねや事前学習が、初めての活動に対するG男の不安を取り除く大きな役割を果たし、G男が有する作業の力を発揮する手助けになったと推察される。

昼食時には、メニューを指さして店員に自分で注文したり、同席した教師や友達に割りばしを配ったりするなど、自ら考えて活動する様子が見られた。



切符を買う G 男

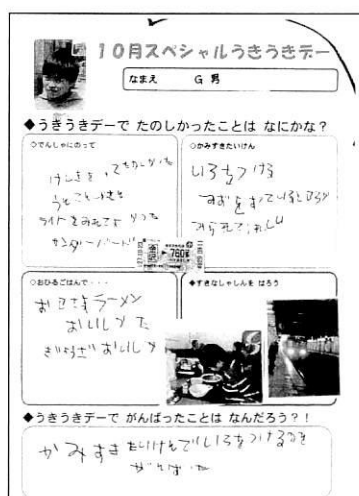


紙すきをする G 男



昼食を食べる G 男

## ウ. 活動を振り返る事後学習



事後学習のワークシート

第三次の「事後学習」では、体験当日の写真のスライドショーを見て、体験してきたことを思い出しながらワークシートにまとめる時間を設けた。スライドショーによる振り返りでは、G男は、自分が好きな場面や活動について近くの教師に指差しで知らせた。大好きな電車の画像は何度も見たいと教師に伝えた。紙すき体験の画像が流れ出すと真剣な顔つきで画面を見て、教師へ伝える姿があった。事後学習のワークシートで活動を振り返り、自分の目標についてどれだけ近づくことが出来たか、頑張ることや出来たことが何かを記述した。2学期のワークシートは活動の項目ごとに分けて書けるように作成した。G男は、「電車に乗って」の項目に対し「景色を見れて楽しかった。運転手さんとライトを見れて良かった。サンダーバード」とすぐに自ら記述した。紙すきについての項目は、すぐに書

くことができなかったが、教師が活動の様子を表す言葉をヒントとして挙げたり、活動の写真を提示したりすると体験当日の自分の様子を思い出しながら、「色を付ける」と書くことが出来た。

また「アルバム作り」では、好きな電車の写真を見つけ、すぐに貼り出した。作業を続けていく中で、いろいろな活動の画像を一つ一つしっかりと見て体験した活動や昼食のことなど、指さしで教師に確認する行動があった。スライドショーを見ている時に、近くの教師に自分の思いを伝えるために指さしだけでなく無音声の口話が加わった。伝えたい内容も乗り物や昼食場面以上に、体験活動の場面が多くあった。1学期の事後指導と比べると自分のできたことを伝えたい思いが伝わってきた。

### ⑤考察

#### ア. G男の単元の目標及び単元を通してのキャリア発達について

G男の単元目標に対する評価は、前記した活動の様子よりほぼ達成できていると言える。ただし、「体験したいことや楽しかった活動を伝える」ことについては、教師の支援や声かけが必要である。

4月当初のG男は、一人で遊んだり、活動したりすることが多く、友達と関わることは少なかった。その少ない関わりでは、クラスメイトのH男に対し嫌がることをして、その反応を見て楽しんでいたことが多かった。

しかし、本単元ではG男の中で友達や周囲の人を意識する姿が見られた。事前学習・事後学習に自分の思いを伝える場を設けることで、他者の話に注目することが増えた。また、友だちの発表を見たり、話をきいたりすることで「こんな人がいるんだ、こんなことを話したり、したりするんだ、～なことが出来るんだ」ということを知る機会となった。徐々にG男の中で友だちが見えるようになり視野が広がった。また、H男の発表に対する教師の対応（意見を褒める、認める）を見て「ああすれば、認めてもらえる。ああすれば、良い言い方になる」事を学び、H男の良い所を真似るようになった。発表活動を繰り返し行う事で、H男に対する関わり方が変わり、併せて他の児童への関心も高まった。校外学習の移動の際にクラスメイトが遅れて歩いていた時には、「遅れていることを教師に伝える」「止まって追いつくのを待つ」といった姿が見られた。

このようなG男の行動の変化は、これまで日常的に行われていた教師の肯定的な関わりや声かけなどの支援が基礎となり、単元を通して、「一人からみんなへ」の気付きがあり、いろいろな変

化を感じられるように成長したことが分かる。この「自分の思いを伝える経験」や「周囲への気付きによる変化」は、他者とのコミュニケーション能力を高め、また新しい人間関係の構築を行う基盤としてG男の力となっていくと考える。

#### イ. 単元設定および授業の展開について

今年度、校外学習の単元で繰り返し行った「事前学習・実践・事後学習」の流れはG男にとって非常に有効であった。中でも、①事前指導での本番に近い模擬体験、②事前・事後学習での発表活動は、G男の中で大きな自信を持つ場となったと言える。そして、「聞く、伝える」機会を通してコミュニケーション能力を高める力を育てられたのではないかと考える。年間を通じて「キャリア発達を促す教師の関わり」として大切にした4つの項目(33ページ参照)を盛り込んだ活動は、G男の「人間関係の構築」「コミュニケーション能力の基礎」「仲間意識」を養うことに大きく関わったと考える。

児童生徒(G男)の内面(推察)							
月日	教師の手だて・支援	児童生徒の学習活動の様子(G男)	要求	知識	自己認識	自己効力感	その他
10/2(金)	事前学習 (ノブワーポイントで日程、活動内容の確認)	とても集中して聞いていた ・自分で教師と会話をしながらワークシートを書いていた	楽しく過ごしたい ・紙すき楽しそう！面白そう！ ・電車に乗りたい ・ライトが見たい ・吊革につかまりたい	前回の電車を使った校外学習楽しかったし、楽しみ ・切符を買いたい	電車が大好き	楽しみにしていることを言葉で書けた ・表現できた	
10/9(金)	事前学習 (中学部で紙すき体験)	とても集中して説明を聞いていた ・意欲的な姿勢で体験していた ・一つ一つの工程を丁寧にしている	・一番にしたい ・ミキサーを操作したい ・水を吸い取る装置のスイッチを押ししたい ・O色で作りたい	・こんなふうにして作るんだ ・ミキサーで紙を細かくする		・僕にもできた	・きれいに仕上がって嬉し ・楽しい
10/16(金)	事前学習 (紙すき体験のDVDで振りかえる)	テレビ画面を集中して見ていた	・テレビ画面を集中して見ていた	・作り方を確認した	・がんばっている		
10/16(金)	事前学習 (お昼ご飯を選ぼう)	迷わずお子様ラーメンセットを選ぶ	・ポテトとラーメンが食べたい	・ポテトとラーメンが美味しい	・ポテトとラーメンが好き		
10/23(金)	うきうき子当日 (電車)	・自動売機にお金を入れて切符を買うことができた ・電車の中では一番前に立って運転席をのぞいている ・停車中に停まっている特急電車をみて教師に「サンダーバード」「はくたか」が止まっているよと伝える ・一番にやりたい ・「やりたい人」の声かけに拳手を説明をしっかりと聞いていた	・自分で買いたい ・お金を入れた ・早く電車が乗りたい ・ホームに入ってくる様子を見たい ・運転手さんを見たい	・マナーを守ることが大切 ・他の人の邪魔にならないようにする ・お客さんが自分でボタンを押してドアを開け入るんだ		・マナーを守れた ・お客さんの乗り降りでのアの開閉を伸ばした	
10/23(金)	うきうき子当日 (紙すき体験)	・注文を自分でした ・餃子を追加注文した ・先生のギョーザをもらおうと皿を出した	・早くしたい ・上手に作りたい	・色や飾りを入れたらどうなる(変化する)だろう		・きれいに出来上がった ・よい仕上がりになったな ・僕にもできた	
10/23(金)	うきうき子当日 (昼食8番ラーメン)	・注文を自分でした ・餃子を追加注文した ・先生のギョーザをもらおうと皿を出した	・ラーメン、ギョーザ、ポテトが食べたい	・ラーメンを食べたことがある ・大好きなラーメンはやっぱ美味しい ・お皿を先生に出したら餃子ももらえる(かもれない) ・餃子が美味しかった僕も頼もう	・ギョーザが大好き	・自分で注文できた ・全部食べれた ・追加注文をして良かった	
10/28(水)	事後指導 (振り返り)	・体験時の写真をスライドで見られる ・ワークシートにできたことを書く ・みんなの前で発表する。	・また電車のライトみたい ・またうきうきデーに行きたい	・あんなふうに表示したら褒められる	・紙すき楽しかった ・ラーメンやっぱ美味しかった ・紙すき上手に出来上がった	・発表できた ・拍手ももらった ・褒められた ・文字で書けた ・発表って楽しい	

#### 4. まとめ

小学部では、目指す姿「自分の好きなことや得意なことに気づき、主体的に楽しく活動する児童」に迫るために、低学年では遊びの指導、高学年では生活単元学習を通して、昨年度の学校研究で学んだ教師の関わりを大切にしながら授業づくりに取り組んできた。

そのキャリア発達を促す教師の関わりで大切にされたことは以下の4つの視点である。

- ①子どもの思いや希望を受け止める
- ②学習活動に子どもの願いや希望を取り込むとともに、子どもの強みを活動に生かす
- ③学習の目標と、学習することの意味や意義を子どもに伝えることを大切にする
- ④子ども自身や子ども同士、教師と一緒に活動の振り返りをする

今年度、これらの視点を大切にしながら授業づくりを行ったことで、各実践の対象児童について考察に示したとおり、目指す姿に迫ることができた。

そこでこれらの視点を通して、児童にとってどのようなキャリア発達を促すことができたかについて整理する。さらに今後、低学年での遊びの指導や高学年での生活単元学習を継続していくうえで児童のキャリア発達支援を促すために大切なことと検討課題について整理する。

##### (1) 今年度大切にされた教師の関わりと児童のキャリア発達

###### ① 子どもの思いや希望を受け止める

教師は児童の思いや希望を児童の全体像から推察して受け止め、その思いが教師に伝わっていることを言葉や表情、行動などで伝えながら肯定的に関わっていくことで、児童は自分の思いが受け止められているという安心感を得ることができ、安心できる環境で集中して活動することができると考えられる。

また、児童は教師が自分の思いを受け止めてくれる存在であると認識することで、自分の思いを伝えたいと思うようになり、「したい」「ほしい」などの要求を伝えるようになり、要求だけでなく、「できない」「難しい」などの不安な思いも伝えたりするようになる。その際、教師が児童の不安の要因について探り、自信を持ってできるような支援を行うことで、苦手なことでもやってみようとする意欲につながっていくと期待できる。

###### ② 学習活動に子どもの願いや希望を取り込むとともに、子どもの強みを活動に生かす

教師は児童の願いや希望を推察して学習活動に取り込んだり、子どもの強みは何かを学校生活全体の様子から探りそれを生かしたりすることで、児童は活動に対して興味・関心を持ち、意欲的に活動に取り組むようになる。そこで、児童はできる体験を積み、その嬉しい気持ちや楽しい思いを教師と共感していくことで、「できた」「楽しい」「もっとやりたい」という達成感や意欲を持つようになることを学んだ。

また子どもの願いや希望を学習活動に取り込み、子どもの強みを活動に生かすことで、初めての活動や苦手意識のある活動でも「やってみよう」という思いを持つことが期待できる。そのためにも教師は児童の願いや希望、強みは何かを、児童と関わりながら探っていく必要がある。

###### ③ 学習の目標と、学習することの意味や意義を子どもに伝えることを大切にする

今年度の実践を行って、学習することの意味や意義を子どもに伝えることは困難であったが、その前段階として、小学部では児童が授業で何をすることが分かり、見通しを持って学習に取り組めることが大切であることを実感した。見通しを持って授業に取り組むことで、「これをしてほしい」「これができるようになりたい」という思いを持つようになり、そのことが児童の授業の目標に



なっていくと考える。

#### ④ 子ども自身や子ども同士、教師と一緒に活動の振り返りをする

低学年では、児童が活動の中で感じている嬉しい気持ちや楽しい思い、驚きや悔しい気持ちなど、様々な場面でその時々感じている思いを教師が読み取り共感していくことが、活動の振り返りにつながっていくと考える。そしてその行為の積み重ねが、児童に様々な経験をもとに、好きなもの、得意なものを模索していく姿につながっていくのではないかと期待できる。

高学年では、事後学習で活動の振り返りとして、校外学習当日の写真をスライドショーに見ている。これにより、児童は当日に体験した一つ一つの活動を一連の活動として理解し、振り返りやすくなる。振り返りでは、「たのしかった」「おもしろかった」ということばがよく返ってくる。その時に教師は、さらに児童に対して具体的に何が楽しかったのか、面白かったのかを問うて確認していく。そのことを繰り返して行くことで、児童自身が経験したことの意味や意義に気づいていくのではないかと考える。

また、事後学習の際に振り返りシートを児童が書いて、クラスの児童の前で発表する時間がある。一人一人が発表する時に、教師はその児童の良かったところ、頑張っていたことを伝えるようにしている。そのことで、友だちの良さに気づき、今までの友達に対する認識を更新して、関わり方が変化していった。教師に認められたい、褒められたいという思いから、友だちの良いところを真似するようになるという良循環が見られた。

子ども自身や子ども同士、教師と一緒に活動の振り返りをすることは、児童にとって他者理解の機会であり、他者理解を通して自分を知ることにもつながっていると見える。

### (2) 遊びの指導、生活単元学習を通してキャリア発達を促すために大切なこと

今年度、低学年では遊びの指導、高学年では生活単元学習での実践を通して児童のキャリア発達を促すことができたといえる。そこで次年度もその2つの学習を軸としさらに実践を深めて行きたい。そこで、この2つの学習を行ううえでキャリア発達を促すために大切だと考えられることを以下に示す。

#### 【低学年の遊びの指導】

時間割では現行通り毎日同じ時間帯で行うようにし、児童に見通しを持って主体的に活動できる時間を保障していく。

また最も大切なことは、児童の思いを受け止め肯定的に関わっていく教師の姿勢と、児童が好きなことや得意なことに気づけるように、安心して思う存分遊べる環境設定や時間を保障していくことである。そして遊びの楽しさに気づくように、教師が児童と一緒に遊び、児童の好きなことや興味あることを遊びに取り入れて楽しく遊ぶことである。さらに友だちの面白い遊びに気づき、その面白さを共有することができるように、教師が児童同士をつなぐ役割を果たすことが大切であるとする。それらのことが物と向き合って自分なりに考えてやってみようと思っただけで体験することになり、主体的に楽しく活動することにつながっていくと考えられる。

#### 【高学年の生活単元学習】

生活単元学習で今後とも大切にしたいことは、今年度行った「事前学習」「実践及び体験活動」「事後学習」という流れを児童にとってわかる状況、できる状況にしていくこと、そして実践及び体験活動では、活動を分担して行う機会があるので、その時は児童がしたい活動を選ぶ機会を設けることである。自己選択の機会と、選んだ活動を行った後、振り返って意味づけしたり価値

づけしたりするために、教師や友だちとともに振り返る時間を十分にとることが大切である。振り返る時には、できたことを褒めると同様、やろうと努力していた姿も教師は認め肯定的に評価をすることが大切になってくる。教師や友だちに褒められたり認められたりする経験を積むことは児童にとって自信につながり、次の活動への意欲につながっていくと考えられる。

今年度の研究を通して、低学年の遊びの指導と高学年の生活単元学習のつながりの一端が見えてきた。高学年の生活単元学習では、したい活動を選ぶ時間がある。自己選択ができるためには、自分は何が好きで何が得意なのか知っていることが大切になる。そこで、低学年の遊びの指導で自分の好きなことや得意なことを見つけることが、高学年の生活単元学習やその他の活動の場面で自己選択をより自覚的に行うことになり、そのことが主体的、意欲的に活動することにつながっていくと考えられる。

また低学年の遊びの指導の時間で、好きな活動を通して達成感や充実感をより多く味わう経験をすることで自信につながり、次への意欲にもつながる。そのことが高学年の生活単元学習で初めての活動を行う際にも、できる状況、わかる状況の中で、「やってみよう」という思いにつながっていくのではないかと考える。

今後の課題として、児童は思っていることをうまく表現することが難しいことが多い。教師も児童の思いをより妥当に推察することに困難さを感じている。そこで児童が思っていることを伝えるように表現したり、教師が妥当に推察したりするために必要な手立てや方法について検討していきたい。

## 参考文献

1. 文部科学省 国立教育政策研究所生徒指導研究センター（2009）「自分に気付き、未来を築くキャリア教育」—小学校におけるキャリア教育推進のために—
2. 幼稚園教育要領
3. 渡辺三枝子・鹿嶋研之介・若松養亮（2010）学校教育とキャリア教育の創造 学文社
4. 菊地一文（2013）実践キャリア教育の教科書 特別支援教育をキャリア発達の視点で捉えなおす 学研教育出版
5. 本校研究紀要 平成26年度